

ADBのアジア経済見通し改訂版発表 インドの成長見通しを上方修正 2009年は6%、2010年は7%に

【香港、2009年9月22日】アジア開発銀行(ADB)が本日発表した「[2009年アジア経済見通し改訂版](#)」*(ADOU2009)によると、インドの2009年の経済成長率は、公共投資の増加、資本流入が予想より早く回復していること、堅調な工業生産、ビジネス・コンフィデンス改善の兆しなどから、ADBが本年3月に発表した前回見通しの5%から6%に上方修正された。

インドでは2009年の農業生産量が低水準にとどまるほか輸出も低迷すると見られるが、財政出動による景気刺激策と適切な金融政策による巧みな経済運営によって世界金融危機の影響は最小限に食い止められ、経済は再成長に向けておおむね堅調に推移している。ADOUは2010年の成長見通しについても、前回予測の6.5%から7%に上方修正した。

[ADBの李鍾和\(Lee Jong-wha\)チーフエコノミスト](#)は「インド政府の強力な財政刺激策が、インド準備銀行(RBI)による思い切った金融緩和策と相俟って、昨年から続く経済停滞に終止符を打つことにうまくつながった」とコメントしている。

インドでは2009年第1四半期の成長率は6.1%と、2008年第3・4四半期よりやや上昇した。好転の背景には、昨年下半年の伸び率が2%に満たなかった工業生産が本年上半期に5%増となったことが反映されている。企業の純益も堅調で、6月の対外商業借入は、2008年9月以降最大の増加幅となる19%を記録した。農業生産高は第2・3四半期とも弱く、成長の重しとなる見込みだが、第4四半期には回復が見込まれる。

2009年の成長は、引き続き公共支出が牽引役となるほか、財政面では財政刺激策効果、および投資マインドの復活に伴う個人消費・投資の拡大がプラス要因になるとみられる。農村世帯に対する家計補助や追加的支援も見込まれ、天候不順の影響で落ちこむ世帯収入と消費を一部支えることになるだろう。

2010年に降水量が回復し、不況を脱した先進国向け輸出が増え、投資マインドが高まれば、経済成長はいっそう改善するだろう。

ADOUでは、世界経済の現状に鑑みて、インドが公共投資主導型の成長戦略をとっていることは適切な措置だが、国や州政府の財政赤字が膨らむ事態は長期的に持続可能ではないと分析している。インド政府も対策の必要性を認識しており、税改正や景気回復を通じて連邦赤字の対GDP比を2010年中に5.5%、2011年には4.0%まで下げるとの姿勢を打ち出している。

ADOUは一方、経済の下押しリスクの一例として、政府の景気刺激策が民間投資のクラウド・アウトを招く場合を挙げ、2010年にこうした問題が発生しかねないとして、政府が財政調整計画を遂行することの重要性を指摘している。

他の潜在的マイナス要因として、本年年末に向けて国内の食料高騰が進めば、準備銀は景気回復の妨げとならない程度にインフレ期待を維持するという金融政策面での難しい舵取りを迫られることになろう。インドの食料価格は、天候不順による不作に伴い今後数ヶ月間は上昇圧力がかかるとみられるが、モンスーン期後半の降雨により貯水量が適正水準まで回復しつつあることから、冬季の農作物収穫高は回復するだろう。

食料高騰はまた、貧困層にとって過大な負担となることから、インド政府は、人々の生活に不可欠な穀物について、備蓄の放出や輸入増といった対策を講じる予定であるとしている。

* ADBが毎年3月に発表している「アジア経済見通し」(ADO)の最新版として毎年9月に発表される。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報官: 望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにでも
ご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>